

川崎市総合計画市民検討会議
意見のまとめ
(イメージ)

平成27(2015)年 月
川崎市総合計画市民検討会議

はじめに

川崎市総合計画市民検討会議（以下、「市民検討会議」）は、これからの川崎の目指すべき方向性や今後の取組を明らかにする「新たな総合計画」の策定に向けて、川崎の将来像を市民の視点で検討し、10年後の川崎市をどんなまちにすべきか、市民の意見や助言をとりまとめて、計画に活かすために設置されました。

市民検討会議は、公募市民委員7名、無作為抽出された市民による「川崎の未来を考える市民検討会」の参加者から14名、コーディネーター1名により構成され、平成26年10月から平成〇年〇月までの〇年〇か月間、主な政策分野ごとに議論を深めてきました。

川崎市においても、今後、避けることのできない人口減少への転換や少子高齢化の進行など、課題は山積しています。そんな中でも、子どもたちの笑顔があふれ、元気な高齢者が社会に貢献しながら生きがいを持つことができ、安心・安全で魅力にあふれる「住みたい」「住み続けたい」まちであるためには、市民と行政が協働によるまちづくりを推進することが必要です。市民検討会議でまとめられた意見が、「新たな総合計画」の策定や今後の市政運営に、有意義に活かされることを願います。

目次

第1章 市民検討会議 意見のまとめ.....	1
1. 各政策分野に共通して大切にすべきこと.....	2
2. 社会福祉	
～超高齢社会においても生き生きと暮らし続けることができる地域の支え合い～.....	3
2-(1) 誰もが安心して暮らせるしくみづくり（支援が必要な高齢者）.....	3
2-(2) 高齢者が力を発揮し、元気で暮らしやすいまちづくり（元気な高齢者）.....	4
2-(3) 超高齢社会を迎えて、いきいきと暮らせるしくみづくり （これから高齢になる方）.....	5
3. 子育て・教育	
～次代を担う子どもを安心して育てることのできるまちづくり～.....	6
3-(1) 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり（主に就学前）.....	6
3-(2) 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く（主に学校教育）.....	7
3-(3) 若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために（主に若者）.....	8
4. 防災・コミュニティ	
～災害から生命を守る地域の助け合い～.....	9
4-(1) 自分・家族でできること（自助）.....	9
4-(2) 地域でできること（共助）.....	10
4-(3) 行政がすべきこと（公助）.....	11
5. 暮らし・交通	
～快適で利便性が高く、暮らしやすいまちづくり～.....	12
5-(1) 超高齢社会に向けた地域交通のあるべき姿とは.....	12
5-(2) 少子高齢社会における地域居住のあるべき姿とは.....	13
6. 文化・スポーツ・都市イメージ	
～文化・スポーツなど川崎の魅力を活かしたシティプロモーション～.....	14
第2章 各テーマにおけるグループディスカッションの意見一覧.....	15
第1部会【社会福祉】における意見一覧.....	16
第2部会【子育て・教育】における意見一覧.....	20
第2回全体会【防災・コミュニティ】における意見一覧.....	24
第3部会【暮らし・交通】における意見一覧.....	25
第3回全体会【文化・スポーツ・都市イメージ】における意見一覧.....	26
第3章 市民から市民へのメッセージ（案）.....	27

第 1 章 市民検討会議 意見のまとめ

市民検討会議では、平成 27 年 7 月に公表予定となっている新たな総合計画の「基本構想」及び「基本計画」の素案策定に向けて、市民の視点から川崎の目指すべき方向性を検討するため、主な政策分野ごとに議論を行ってきました。

少子高齢化の進行や超高齢社会の到来などの社会環境の変化を踏まえ、財政状況が厳しさを増す中でも持続可能な社会を構築していくためには、行政によるサービスの提供に加えて、地域でお互い助け合う仕組みが必要となるということを基本認識とし、各会議では、「自分・家庭でできること」、「地域でできること」、「行政が行うべきこと」などについて、活発な意見交換が行われました。

本章では、「市民検討会議 意見まとめ」として、各政策分野に共通して大切にすべきことと、主な政策分野ごとに出された意見のまとめを掲載しています。

<会議の開催経過>

日 付		会議名	検討テーマ (主な政策分野)
平成 26 年	10 月 4 日(土)	第 1 回全体会	川崎の課題・魅力・ポテンシャル (今後の議論で大切にしたいポイント)
	11 月 1 日(土)	第 1 部会	社会福祉
	12 月 25 日(日)	第 2 部会	子育て・教育
平成 27 年	1 月 25 日(日)	第 2 回全体会	防災・コミュニティ
	2 月 8 日(日)	第 3 部会	暮らし・交通
	3 月 1 日(日)	第 3 回全体会	文化・スポーツ・都市イメージ
	4 月 25 日(土)	第 4 回全体会	市民検討会議 意見まとめ
	7 月 〇日(〇)	第 5 回全体会	素案について

※全体会はすべての委員が出席し、部会は所属する委員が出席して検討する会議です。

1. 各政策分野に共通して大切にすべきこと

市民検討会議では、「社会福祉」、「子育て・教育」、「防災・コミュニティ」、「暮らし・交通」、「文化・スポーツ・都市イメージ」の5つの政策分野について議論してきました。それぞれの議論を通して、それぞれの政策分野に共通して必要な視点であり、大切にすべきことについて、以下のように意見をまとめました。

多世代交流の場づくり

- ★高齢者と子ども・若者をつなぐ世代を超えた“ナナメの関係づくり”が必要です。
- ★多世代が気軽に集まれる場や、地域や多世代が「伴走型」で子育てを支える環境づくりなどが必要です。
- ★支援が必要な人を地域で支えるため、日頃のコミュニケーションづくりなど、多様な市民が支え合うしくみづくりが必要です。

人材や資源の有効活用

- ★元気な高齢者のスキルや経験が発揮できる出番を地域で創出する必要があります。
- ★川崎の魅力やポテンシャルを最大限に活かしながら、様々な取組を推進していく必要があります。
- ★市内のプロ人材や地域人材、自然資源や既存の地域資源を有効活用しながら取組を推進していく必要があります。

家庭・地域・行政などが共に連携して

- ★家庭・地域・行政がそれぞれの役割を果たしながら、共に連携していく必要があります。
- ★大学や民間企業など、多様な主体と連携しながら取組を進めていく必要があります。
- ★情報共有には、自分で知ろうとする意識が大切であり、地域でのコーディネートも必要です。

効果やメリットの見える化でリアルに実感

- ★子どもの頃から働く喜びや意味をリアルに実感できる場や取組の推進が必要です。
- ★取組を進めるためには、その効果やメリットを“見える化”することが必要です。
- ★知られていない情報の発信の工夫や、内外への川崎のまちの魅力などのPRが必要です。

※ 「社会福祉」「子育て・教育」までの内容を踏まえ記載したイメージです。
※ 主な政策分野についての議論が終了する第3回全体会后に、「各分野に共通して大切にすべきこと」を抽出して記載します。

2. 社会福祉

～超高齢社会においても生き生きと暮らし続けることができる地域の支え合い～

平成 32(2020)年には、川崎市においても市民の 21%以上が高齢者となる「超高齢社会」が到来します。また、30 年後には市民の 3 人に 1 人が高齢者となり、現役世代 1.7 人で 1 人を支える社会が到来します。財政状況が厳しさを増す中で持続可能な社会を構築していくためには、行政による直接的なサービスの提供に加えて、地域でお互い助け合う仕組みが必要となります。

「社会福祉」のテーマについては、ライフステージ別に「支援が必要な高齢者」、「元気な高齢者」及び「これから高齢になる方」について、これから必要となる取組に関する議論を行い、以下のように意見をまとめました。

2-(1) 誰もが安心して暮らせるしくみづくり（支援が必要な高齢者）

- **支援が必要になる前からの地域での関係づくり、日頃からのコミュニケーションづくり**
 - 困っている人の情報が把握できないことが問題であり、挨拶や声掛けで地域での関係をつくるとともに、気軽に集まれるところを地域につくることが重要です。（自助・共助）
 - 地域で支え合うためには、介護が必要になる前から近所との関係づくりが重要です。（自助・共助）
- **家庭・地域・行政の連携による対策の推進**
 - 家庭・地域・行政が連携し、病気や介護の予防・事前対策に取り組むことが重要です。（自助・共助・公助）
- **届きやすい情報提供と地域でのコーディネート**
 - ボランティアや見守りをやってもよいという人は多いため、行政が情報提供を行うとともに、地域でコーディネートする人材の育成が必要です。（共助・公助）
 - 行政による支援は充実しているが、その情報が届いていない。届け方に工夫が必要です。（公助）
- **高齢者自身が情報を知ろうとする意識を持つ**
 - 高齢者自身が、元気なうちに介護や福祉の情報を知ろうとする意識が大切です。（自助）
- **介護の専門人材を確保する仕組みづくり**
 - 不足している介護を担う専門人材を確保する仕組みづくりが必要です。（公助）



キーワード：「情報の共有」、「人間関係」

支援が必要になる前からの地域での関係づくりが重要であり、個人情報保護の壁があるからこそ、日頃からのコミュニケーションが大切です。

2-(2) 高齢者が力を発揮し、元気で暮らしやすいまちづくり（元気な高齢者）

□ 高齢者の出番づくり、高齢者のスキルや経験を発揮できる機会を地域で創出

- 高齢者が参加したくなる仕組みづくりが重要であり、地域にコーディネーターが必要です。地域にはいろいろなスキルや経験を持った高齢者がいるため、「地域の便利屋集団」をつくることも考えられます。（共助・公助）
- 役割や責任をもって生きがいを感じられるように高齢者の“出番”を作ることが大切です。町内会など地域での活動や、ボランティア活動など、自分のスキルや経験を発揮できる機会を創出する必要があります。（共助）

□ 世代を超えたナナメの関係、子ども・若者と高齢者のコミュニケーションの場づくり

- 行政は交流の場ときっかけを提供し、あとは市民同士が連携して、世代を超えたナナメの関係、コミュニケーションの場を作り出していくことができます。（自助・共助・公助）
- 世代を超えて繋がりをつくるのが大切です。保育園・幼稚園・学童などと、老人施設を近い場所に置くなどすることが考えられます。（公助）
- 子ども・若年層との交流促進が重要であり、小学生とのコラボや高齢者と若者のシェアハウスなどが有効だと考えられます。（共助・公助）
- 高齢者だけではなく、子どもや女性も集まる場が必要です。コミュニティキッチンなどの気軽な多世代交流の場を作ることが考えられます。（共助・公助）

□ 高齢者が外に出て、交流するためのやる気を起こすしかけづくり

- 高齢者が外に出て、交流することが元気の源になる。そのためのやる気を起こす仕掛けづくりが必要です。地域情報紙などによる発信を強化したり、行政の業務の一部を高齢者に委託したりすることなどが考えられます。（公助）



キーワード：「出番」、「場づくり・きっかけづくり」

主体はあくまで市民であり、出番をつくるのが重要です。そのきっかけづくりは行政が行う必要があります。

2-(3) 超高齢社会を迎えて、いきいきと暮らせるしくみづくり (これから高齢になる方)

□ 地域や大学などと連携した検診の促進

- 日頃からの食生活の改善や運動とともに、検診を促進することが重要です。検診に足が向かない高齢者がいるため、区民祭への検診コーナーの出店や大学と連携による出張検診などが考えられます。(自助・共助)

□ 自然資源や関連施設を活用した交流・運動機会の拡大

- 運動のきっかけづくりのために、生田緑地や多摩川など川崎市内の自然資源を活用したイベントを行うことが考えられます。また日常的な運動機会をつくるため、多摩川に民間活用によるスポーツ拠点を設けることができるとよいです。(共助・公助)
- 他地域との交流や施設の相互利用など、広域的な調整も重要になります。(公助)

□ 民間も力を出しながら、高齢者やこれから高齢者になる方が地域に出ていくやる気を引き出す

- 日常的に地域に出ていく機会をつくる必要があります。例えば地元商店と連携して特典を設けられるとよいです。(共助・公助)



キーワード:「メリットと見える化」

民間も力を出しながら、メリットを感じることで、効果が見える化することが重要であり、高齢者やこれから高齢者になる方のやる気を引き出すことが必要です。

3. 子育て・教育

～次代を担う子どもを安心して育てることのできるまちづくり～

全国的に少子化が進展する中で、川崎市の出生数は近年横ばい傾向にあるものの出生率は国の平均より低い水準にとどまっており、子どもを産み育てやすい環境のさらなる充実や、地域で子育てを支える仕組みづくりが求められています。また、学校教育においても、学校施設の老朽化に適切に対応するなど、教育環境の充実を図りつつ、確かな学力と豊かな心の育成に向けた教育が求められています。さらに、学校卒業後、進学も就職もしない若年無業者が社会問題となる中で、若者の成長と自立を支援する取組の強化が求められています。

「子育て・教育」のテーマについては、子どもの成長段階別に「主に就学前」、「主に学校教育」及び「主に若者」について、これから必要となる取組に関する議論を行い、以下のように意見をまとめました。

3-1) 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり（主に就学前）

□ 保育の質を確保し、安心して育てられる不安のない保育環境の整備

- 待機児童をゼロにすることは必要であるが、待機児童に関する情報提供、病児保育、育児サポートなどの課題があるため、待機児童に対する不安をゼロにする、“実感ゼロ”を目指すべきです。（行政）
- 私立の保育園が増えている中で、保育の質を確保し、安心して預けられる保育環境を整備することが重要です。（地域／行政）

□ 家庭で教え、地域や多世代が「伴走型」で支える環境づくり

- 家庭で大切なのは子どもの「伴走者」として教えることだが、多様な状況に応じて地域・行政が支えていくことも重要です。（家庭／地域／行政）
- 子育てをサポートしたいと思うベテラン世代もあり、子育てを気軽に相談できるネットワークづくりが重要です。（地域／行政）
- 核家族化が進む中で、子育て世帯を多世代で支える環境づくりが大切です。（家庭／地域／行政）

□ 安心・安全に楽しく遊べる遊び場づくり

- 幼児や小・中学生などみんなが安心・安全に楽しく遊べる場づくりが重要です。（地域／行政）

□ 川崎市として必要なサービスの見極めと財源の多元化

- 周辺の自治体とサービスの違いがあり、川崎市として必要な福祉サービスを見極め、その戦略について市民とのコミュニケーションが必要です。（家庭／地域／行政）
- 税収や利用者負担以外のもの、たとえば保育園や公園のネーミングライツなどによって財源を捻出するなど、子育てサービスを支える財源を多元化することが重要です。（行政）

キーワード：「伴走型子育て」

子育ての環境や家庭は多様なため、画一的な価値観やサービスではなく、本人の立場に立ち、それぞれの家庭の状況にあわせて「伴走」することが重要です。これは青年期の「独りにしない」にもつながる普遍的キーワードです。

3-(2) 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く（主に学校教育）

□ 川崎市の資源や魅力を最大限に生かし、家庭・地域・行政が連携して、主体性・創造性を育む環境づくり

- 川崎市にはハイテク企業や文化芸術などの魅力的な資源がたくさんあるため、これらを最大限に活かして、子どもたちが将来こうなりたい、こういう仕事に就きたいというビジョンや希望を育む体験の場を提供することが重要です。（地域／学校・行政）
- 子どもの主体性や創造性を養うことが大切であり、そのための余暇や遊びの時間を地域で提供できるように行政がサポートしていくことが必要です。（地域／学校・行政）
- 子どもの好奇心・集中力を育てる交流・コミュニケーションを、家庭・地域・行政で連携して支えていくことが重要です。（家庭／地域／学校・行政）

□ 地域の色々な人材が学校教育にかかわる機会づくり

- せめて小学校は「100%わかる」を目標にしたい。多様な子どもの状況に応じ、学力・人間力の向上に向けて、地域・学校が一体となって取り組む必要があります。（地域／学校・行政）
- 学校だけでなく、地域でコミュニティスクール的な資源をつくり、プロ人材、地域の高齢者、企業人、ボランティア等の地域のいろいろな人材が学校教育に関わる機会をつくることが重要です。（家庭／地域／学校・行政）

□ 学力・人間力の向上と自尊心としつけを身につけるカリキュラム・学校運営の実現

- 子どもが生きがいを持って生きていくためには、自尊心としつけを身につける学びを中心においたカリキュラム・学校運営が重要です。（家庭／地域／学校・行政）
- 先生が忙しく、授業準備以外にも書類整理やモニターペアレントなどへの対応に追われることも多く、自信をなくしがちなため、まずは先生に自信を持ってもらうことが大切です。（地域／学校・行政）



キーワード:「場づくり」

遊び場をつくる、大人がかかわる機会をつくる、ということにもつながります。地域に開かれた学校運営も、1つの「場づくり」です。

3-(3) 若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために（主に若者）

□ 多世代が交流し、気軽に集まり相談できるふるさとづくり

- 学童をはじめ、多世代が気軽に相談・交流し、職業など多機能に交流できる機会など、ふるさとづくりが大切です。（地域／行政）

□ 子どものころから働くよろこびや価値観をリアルに感じられる学びの機会づくり

- 家庭で働く喜びを伝え、さまざまな職業の達人と話す機会など、働く価値観を子どものときから考え、育成する仕組みづくりが大切です。（家庭／地域／行政）
- 働くよろこび・仕事に対するやりがいを見つける機会をつくるため、具体的な形で中間就労の機会をつくり、働くことをリアルに感じる情報提供や体験機会を教育段階で多様に用意することが重要です。（家庭／地域／行政）

□ 多様な市民が支え合うコミュニティづくり

- 多様な市民が支え合うコミュニティづくりが重要です。（地域／行政）
- 辛い状況にある人を独りにしないために、困難な状況にある若者を抱える家族を地域で支え、独りにしないことが重要です。地域で引きこもっている若者が地域で活躍できる場が必要です。（家庭／地域）

□ 家庭・地域・行政・民間が横断的に取り組み、適切な役割分担で若者を支援するしくみづくり

- 家庭・地域・行政が負担を分担しながら、一か所に集中しない取組が重要です。（家庭／地域／行政）
- 「若者の自立」に家庭・地域・行政・民間が横断的に取り組む必要があり、その財源は国や市で役割分担することが必要です。（家庭／地域／行政）

□ 再チャレンジできる若者のキャリア支援・就職支援のしくみづくり

- 再チャレンジできるキャリア支援と就職支援の情報提供も重要です。（行政）



キーワード：「実感・リアル」

「働くリアリティを感じる」とともに、「働くよろこび」に触れることが重要です。実感することで教育の効果が高まり、就業意欲も高まります。

4-(2) 地域でできること（共助）

4-(3) 行政がすべきこと（公助）

5-(2) 少子高齢社会における地域居住のあるべき姿とは

第 2 章 各テーマにおけるグループディスカッションの意見一覧

本章では、各会議のグループディスカッションにおいて出された意見やアイデアをすべて掲載しています。

<会議の開催経過>

日 付		会議名	検討テーマ (主な政策分野)
平成26年	10月 4日(土)	第1回全体会	課題・魅力・ポテンシャル (今後の議論で大切にしたいポイント)
	11月 1日(土)	第1部会	社会福祉
	12月25日(日)	第2部会	子育て・教育
平成27年	1月25日(日)	第2回全体会	防災・コミュニティ
	2月 8日(日)	第3部会	暮らし・交通
	3月 1日(日)	第3回全体会	文化・スポーツ・都市イメージ
	4月25日(土)	第4回全体会	市民検討会議 意見まとめ
	7月 〇日(〇)	第5回全体会	素案について

※全体会はすべての委員が出席し、部会は所属する委員が出席して検討する会議です。

第1部会【社会福祉】における意見一覧

《グループディスカッションでの意見》

区分	意見	取組の主体			
		自分	共助	公助	
支援が必要な高齢者	困っている人の情報が把握できていない。	<ul style="list-style-type: none"> 困っている人の情報も知ることが大事（個人情報保護法がネック） できることは地域の中で改善・対処する。 集合住宅居住者への対応が必要 		●	
	あいさつ・声かけ	<ul style="list-style-type: none"> 近所づきあいによる高齢者の居住情報の把握が大切 あいさつが大事 ゴミ出し、買い物など簡単に手伝えることを手伝う。 ひと声かけることで情報を知ることができる。 「あいさつ+ひとこと」が関係づくりにつながる。 	●	●	
	地域を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 趣味などのやりたいことを増やす。 自分の地域を知る。 	●		
	気楽に集まれるところ	<ul style="list-style-type: none"> 「いこいの家」は入りづらい。（ネーミングがよくない。） 地域包括支援センターは中学校区で広すぎる。 住んでいる地域に気楽に集まれる場所があるといい。 多世代が入りやすい場所をつくる。 商店街の空き店舗を活用する。 コミュニティカフェをつくる。 公園・公民館・図書館を活用する 公共施設を気軽に多目的利用できるとよい。 		●	●
	介護が必要になる前からの人間関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> 介護が必要になる以前に人間関係をつくることが重要 ボランティア活動への参加 町内会のコミュニケーションが大切 自治会活動の活性化に寄与すべき。 「近所」＝「近助」（近くで助ける関係）を築く。 要支援者が参加しやすいイベントの実施 		●	
	地域で支え合う当たり前	<ul style="list-style-type: none"> 要介護者で一人暮らしの方を共助で支える。 日中に自宅にいる人たちがお互い様の関係で支え合うこと、地域で見守り連絡し合うことが大切（例：認知症の方） 		●	
		<ul style="list-style-type: none"> 家族間で連絡を取り合い、何かあった場合の対策方法を決めておく。 病気予防・介護予防のために、健康的な生活を送る。 	●		
	家族・地域・行政の連携	<ul style="list-style-type: none"> 家族・地域・行政の連携・協働で実行されるべきことも多い。 医療・介護のネットワークが必要 自宅での介護には限界がある。 コスト削減、情報システムの効率化 自宅で介護、自宅で最期なら、そのシステムづくりが必要 利用しやすい医療体制の整備 予防・介護対策が重要。コスト削減にもつながる。 	●	●	●
	支える側のサポートの充実	<ul style="list-style-type: none"> 自助は十分にやっている。要介護者には介護者が必ずいる。（一人暮らしの場合それは誰か。） 自助は皆良くやっている。 		●	●
	地域のコーディネート力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 地域のコーディネート力を養成する。 		●	●
ボランティア情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアや見守りをやってもよいという人は多い。 ボランティア情報の提供・共有 ボランティアを募る。 		●	●	
支援が必要な人の情報	<ul style="list-style-type: none"> 家族が倒れないために地域包括支援センターに関わってもらおう。 悩みを相談できる相手、場所をつくる。 行政事務の一部を地域に移管する。 		●	●	

区分	意見		取組の主体		
			自助	共助	公助
支援が必要な高齢者	情報共有の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を地域で共有する。 地元の支え、支援が必要な人の情報を開示する。(症状、してほしいこと) 要支援者のMAPをつくる。 支える気持ちはあるけど、「誰を」が分からない。 行政が情報を提供してもいいのではないか。 情報提供のタイミング(時期)も大切 		●	●
	発信力が弱い。	<ul style="list-style-type: none"> 良い施設がありながら知られていない。 高齢者に届きやすいPRを。 			●
	日常的に目にふれるPR	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に目につく場所でのPRを行うべき。 			●
	世代を超えて情報をクロスさせる	<ul style="list-style-type: none"> 学校などを通じて、子どもから家族に伝えてもらうとよい。 			●
	必要な情報を知る意識を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 仕組みが知られていない。 知ろうという意識がない。 介護の情報を健康なうちに知ることができるようにする。 でも、元気な人の心にそういう情報は届かない。 	●		
	介護を担う専門人材の充実	<ul style="list-style-type: none"> 介護人材、リソース確保の仕組みづくり 介護人材が足りない。(給料がよくない。) 川崎は23区と住環境は変わらないのに住コストは安い。 介護人材(になりうる人)が集まらないのは、川崎の良さが知られていないからではないか。もっとPRすべき。 			●
元気な高齢者	高齢者が参加したくなる仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 元気な高齢者が参加できる仕組みは今もたくさんある。参加意識を高めるためにどうするか。 		●	●
	コーディネーターが必要	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員の役割・負担が重すぎる。 情報を住民に伝達し、家族・地域・行政の連携で具体的なアクションに結びつけるコーディネーターが必要。このコーディネーターを行政が任命し、行政の業務も一部を委嘱するとよい。 行政情報を一元化して伝えて欲しい。(行政による認定) 町内会・自治会活動が閉鎖的 		●	●
	地域の便利屋集団 地域シルバー人材センターの設置	<ul style="list-style-type: none"> 見守りボランティア、交通安全ボランティアなど元気で意欲のある方を活用すべき。 働く場がある限り働いてもらう。 役割を担ってもらう。 地域の便利屋集団、リーダーになってもらう。 シルバー人材センターを各区・地域ごとに設置するとよい。 		●	●
	出番をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> シニアプロボノ登録制度があるとよい。(プロボノ：専門的知識やスキルを生かした社会貢献) 場ときっかけがあれば活動は市民が主体的にできる。 高齢者が自分の経験やスキルを伝承する会を開催する。 		●	●
	地縁組織の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動へ参加しやすい仕組みづくり 町内会を活性化させる必要がある。 地域における運動イベント(ジョギング、太極拳など)を開催する。 仲間づくりが重要 上手くなじめない男性へのケアが必要 		●	
	高齢者自身が地域に出てゆく。	<ul style="list-style-type: none"> 生き生きと暮らすには何か責任、役に立っているという実感が必要 地域に貢献する。(役割と責任) 高齢者が必要とされ求められる人となるように。(生きがいを感じる。) 高齢者として自分は今何ができるか。何をしたいか。 	●		
	きっかけづくりと場の提供	<ul style="list-style-type: none"> 行政は交流の場ときっかけをつくるだけで良い。 高齢者地域デビューセミナー(ななめの関係づくり)・公園体操・入試・寺子屋・仕事・子育て支援といったきっかけをつくり、場を提供する。 高齢者が地域のために活動するお墨つきときっかけをつくる。 		●	●

区分	意見	取組の主体			
		自助	共助	公助	
元氣な高齢者	ナナメの関係、コミュニケーションの場	<ul style="list-style-type: none"> • これからの世代をより多く定着させる。 • 参加は登録制にする。 • 付き添い人も障がいのある方、病状にあわせたケアを。 • 河原町団地の改善が必要 • コミュニティコーディネーターが必要 • コミュニティ活動の会場費（駅、空家）などは行政負担で。 • 「高齢者」←名前を変える。カッコイイ名前にする。 		●	●
	高齢者が働く場づくり	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者への仕事のニーズを提示してもらう。 • 高齢者の働ける機会の創出 • 高齢者にインセンティブを与え、高齢者のチャンスをつくる。 		民間	
		<ul style="list-style-type: none"> • 若い人が年金を心配しているのではないか。川崎は福祉が充実していることをアピールすべき。 			●
	多世代交流の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> • 多世代がつながる場を用意する。17～21時に開放して保育・学童・大人など多世代の方が交流できるようにするとよい。（異文化交流） • 保育園・幼稚園との老人施設のジョイント（交流） • 子どもとのコミュニケーションの機会をつくる。 		●	●
	交流する・外に出る。	<ul style="list-style-type: none"> • 交流することが元気の源になる。 • 身内の者が高齢を迎えた時に身内で温かく見守る。 • ケースワーカーではなく、介護施設ではなく、自宅で見守っていく。 	●		
	すそ野を広げる。やる気を起こす仕掛け	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアポイントの導入 • ボランティア新聞を作って募集する。 • タウンニュースも活用して発信する。 • 行政の業務の一部を元氣な高齢者に委嘱する。（有償でも可） 			●
これから高齢になる方	食生活改善	<ul style="list-style-type: none"> • 食生活等の改善へ導く。 • 食生活に気をつける。（魚中心にする。） 	●		
	運動	<ul style="list-style-type: none"> • 自らが体を動かそうとすることへの後押しがあるとよい。 	●		
	健康づくり 検診の促進	<ul style="list-style-type: none"> • 自分と家族の健康に気をつけましょう。 • 検診の推進意識を持つ。 • 社員の健康づくりの促進も必要 • 認知症の予防が重要（体操等） • 区民祭などへの検診の出店があるとよい。 • 検診に足が向かない高齢者がいる。 • 大学などとの連携による出張検診ができるるとよい。 	●	●	
	子ども・若年層との交流	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者と若年層とのシェアハウスの拡大 • 小学生とのコラボレーション • 地域の見守りをする。 	●	●	
	地域に出ていく機会をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> • 地元の商店がお買い物の特典カードを作成する。（メリット） • ○○歳になったら特典カードを送付する。 • 買いものに出かけることでも、歩く必然、人と会話する機会が生じる。 • 高齢者への特典・メリットのある社会（老人向けサービス） 	●	●	●
	多世代交流の機会づくり	<ul style="list-style-type: none"> • 集めるのではなく、集まるような魅力的な場づくり • 気軽に立ち寄れる場をつくる。 • 主婦が減少しているので、コミュニティキッチンにより食育も充実（対象：子ども、働き世代、シニア） • 資格がなくてもできる範囲でのシニアによる子育て支援 • 高齢者だけではなく子どもも女性も。 		●	
運動のきっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"> 〈イベント〉 • イベントによる常に運動する習慣づくり • 川崎マラソンを開催する。 • マスターズ大会によって動機づけ 〈日常的な運動の機会をつくる。〉 • 認知症予防方法（訓練）を広める。 • 多摩川に民間活用によるスポーツ拠点を設けられるとよい。 		●	●	

区分	意見	取組の主体		
		自助	共助	公助
これから高齢になる方	教育の場を通じた多世代のコミュニケーションの機会づくり			●
	広域的な調整等(他の地域との交流促進・介護施設の有効活用)			●
	メリットづくり、見える化		民間	

《意見シートでの意見》

<ul style="list-style-type: none"> ・家族・自分、地域、行政が単独で行うだけでなく、それぞれがシームレスに連携することが重要。 ・情報を確実に市民に伝えて具体的なアクションを促すことが重要。また、家族・自分、地域、行政を結びつけるコーディネーターを増やすため、市がコーディネーターの認定を行うことが必要。 ・財政負担軽減のためには、「対策」以上に「予防・保守」が重要。予防・保守的な対策として、介護・医療 情報ネットワークシステムのモデルを構築し、情報の共有化、重複回避によるコスト削減を図ることも一例である。 ・自治会、町内会、民生委員がもっと効果的・効率的に動き、より多くの人に参加するために、地域への分権を本格的に進めることを考えてほしい。 ・高齢者は頼られると力を出すので良い意味でもっと利用すべき。 ・高齢者福祉の仕組みは素晴らしい。これからは健康度 up と認知症などの予防策を考えることが必要。 ・《支援が必要な高齢者について、家族や自分にできること》自分もいつか認知症になり、介護が必要になるかもしれない。もしなったら周りの人に求めることは何かと想像してみる。自分の希望を家族に伝えておく。家族の希望も聞いておく。(要介護状態になっても自宅で過ごしたい、エンディングノート、遺言等) ・《支援が必要な高齢者について、行政が担うべきこと》給付の適正さを確保する必要がある(市民が納める保険料は適正に使われているか、指導検査、ケアプランチェック等) ・《元気な高齢者について、地域が力を合わせて実現できること》地域活動内での男女共同参画を進める。例えば、会社での役職を持ち出して男性は地域でも役職につき、実作業は女性が行うなど。行政が担うべきことにもなりますが、シニアデビュー講座等で、会社では偉かったかもしれないけれども、地域ではいちからのスタートですよ、と教えてくれるところがあるとよいと思います。) ・《元気な高齢者について、行政が担うべきこと》人材バンク(「11 月版多摩区版広報で、市民活動人材情報の登録制度が始まることを知った。市民検討会のように無作為抽出で募る、申込書を広報に折り込む、情報が常時受付・更新され、ホームページ、区役所や回覧板等で紙媒体でも見られるとよいと思います。) ・《高齢者福祉について、行政が担うべきこと》委託できる業務は委託し(市民団体、シルバー、福祉作業所、民間企業等)、今後増える地域包括ケアシステムの構築に向けた業務に特化するべき。
--

第2部会【子育て・教育】における意見一覧

区分	意見	取組の主体			
		自助	共助	公助	
主に就学前	待機児童	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童の情報をリアルタイムで公開すべき（待機児童数、施設状況等） 待機児童ゼロの先のケアが重要 保育所入所条件、ポイントの見直しをすべき（兄弟、親戚、時短等） 保育園と幼稚園でもしっかりしつけをしてほしい。 			●
	保育環境（施設・人材）	<ul style="list-style-type: none"> 子育て家庭に対する企業の支援が必要 支援しやすい業態や、支援に積極的な企業を誘致・支援する。 民間保育士の雇用条件の改善が必要 保育所の設置環境の改善が必要 民営化に伴う保育士の資質の向上が必要（若い保育士） 保育サービスにスポンサーをつける。（ネーミングライツ） 子育て、教育関係の公共施設のネーミングライツを売って財源とする。 		●	●
	しつけ・体験、親子のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> しつけは家庭でできる。（親が見本をやってみせて教える。） 親子で色々な体験と一緒にやる。（一緒に出掛ける、料理、掃除 etc.） 何でも話せる親子関係をつくる。 子どもの伴走者になる。 	●		
	食育・お金の使い方	<ul style="list-style-type: none"> 小学生の頃から正しいお金の使い方を教える。 子どもの健康・食育に気をつける。 	●		
	親同士のつながりづくり	<ul style="list-style-type: none"> 親同士のつながり、ママ友の情報交換を大事に。 親同士の交流の場づくり、機会づくり 		●	
	育児サポート	<ul style="list-style-type: none"> 育児サポートの「安価な場の提供」「情報の公開/共有」「サポートママの認可」 子育てサポートの認知度をあげる。 ホームページをもっと活用する。 			●
	病児・医療	<ul style="list-style-type: none"> 困っている人に集中的に支援を。（ちょっとした病気での医療に支援はいらない。） 病児ケア、父親が休んでケアできる環境づくり、ベテラン先輩に学ぶネットワークづくり 子育ての相談や、育児サポートママ等の制度が重要。（一時的な病児ケア、あずかり etc.） 		●	●
	子どもとのコミュニケーションの機会を	<ul style="list-style-type: none"> 家族で一緒にみる TV 番組などもコミュニケーションの機会になる。 	●		
	多様な働き方を可能に	<ul style="list-style-type: none"> 夫の育休取得、在宅勤務への切り替え 	●		
	地域のコミュニケーション up で安全・安心な地域をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 自治会等で声掛けの近所回りを定期的に行う。 	●	●	
	子育てを「孤独な育て」にしない場づくりを。	<ul style="list-style-type: none"> ママ友つきあいの悩みなど、人に言えない悩みの相談の場も必要 子育てを支える地域の人々の参画を増やす。 子育てサロンの場を増やす。 	●	●	
	多世代交流、イベント	<ul style="list-style-type: none"> お年寄りの話を聞けるイベントづくり（昔話） 親子で参加できるイベントづくり（共働き家庭のコミュニケーション） 子育て経験の多世代交流 	●	●	
	地域でのサポート	<ul style="list-style-type: none"> 困ったときの地域のサポート 子育て中のお母さん、お父さんが悩みを相談できる場所があるとよい。 		●	●
	民間の活用・民間への啓発	<ul style="list-style-type: none"> 市民・民間の取組（施設・人材）を行政が活用する。 企業への育児支援の推進（条例 or 助成金・法人税減税） 働きながら子育てできる環境づくり・職場づくり 保育は職場側の配慮も必要 			●
	遊びの場	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが行きたくくなるような楽しい場所が近くにあるとよい。 友達とゲームや遊びができる環境づくり 遊びの豊かな教育をする。 		●	●
場の活用	<ul style="list-style-type: none"> 場としての学校を活用する。 			●	

区分	意見	取組の主体			
		自助	共助	公助	
主に学校教育	“小児医療費”、“保育サービス”を周辺自治体並に？⇒メリハリを出していく？	<ul style="list-style-type: none"> 小児医療費：東京の充実した助成に比べて（中学まで）、川崎は見劣りする。（対象年齢引上げるべきではないか） 福祉はメリハリが必要。現在の資源配分には疑問がある。 定期健康診断のお知らせ（インフルエンザ）などの情報提供が不十分 			●
	ビジョン・希望<川崎・仕事の魅力を伝える>	<ul style="list-style-type: none"> 目標（希望）を持たせるために、なりたい職業の体験をする。（地域企業との連携） ハイテク企業と連携し、商店街と協力する。 川崎の産業や技術力を教える（教育で夢や希望を伝える。） 人生のビジョンを知る・考える・体験する機会をつくる。（企業連携） 東京オリンピックに向けてスポーツで夢や希望を伝える。 「音楽のまち かわさき」なのだから、音楽で夢や希望を伝える。 民間人材（産業・音楽・研究）から経験談・刺激を貰う。 民間で成功した人を招いて話を聞く時間を作る。 		●	●
	ビジョン・希望<教育の選択肢>	<ul style="list-style-type: none"> 学力・成績でなく、主体性・自尊心・希望を育てる教育 受験にとらわれない教育選択肢の提供 中高一貫校の目指すところは何か。公立中学のあり方を考えるべき。 奨学金制度の緩和 			●
	休み遊びの活用	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの長期休みのサポート。子どもが夏休み中の共働き世帯に対して、わくわくプラザだけではケアが不足している。 小学校高学年の長期休暇中の受け皿がない、塾しかない。 		●	●
	公園・学校などの場の活用	<ul style="list-style-type: none"> 学校でイベントを開く。 夏休み水泳教育を行う。 学校でボールを使えるようにする。 小学校の活用、週末はスポーツ少年団に専有されている。 遊び方（ゲーム以外）を教え、楽しさを体験する場を提供する。（夏休みの寺子屋等） 学力・体力を養う「行き場」づくりが必要。 		●	●
	好奇心・集中力を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 好奇心を育てる。 集中力を育てる。 何事にも好奇心を持たせる。 子どもの「なぜ?」「どうして?」にじっくりと付き合う。 	●		
	コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 親子でのコミュニケーションを大切にする。 コミュニケーション能力を育てる。 	●		
	子どもの交流	<ul style="list-style-type: none"> 親が子どもの交流を支える。 子ども同士が交流できる環境をつくる。 ゲーム、ライン等の時間を決める。（約束させる。） 	●	●	
	働く理由に応じた支援	<ul style="list-style-type: none"> 子育てしながら女性が働くのは仕事が好きだからか、経済的理由か。 それによって支援の方法が違う。 	●	●	●
	複合化	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な観点による複合施設化（保育～小中学～介護） 			●
	働く姿を見せる	<ul style="list-style-type: none"> 両親・親戚の職場を見学・体験する。 	●	●	●
	学校の勉強だけじゃない。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味の先を学べる場を育む。（勉強も含む。） 授業がわかることが大切。自信を持たせる教育を目指すべき。 自信や自尊心は大切。（アメとムチも必要か。） 	●	●	●
	大人が学校教育に携わる機会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアを教育に取り入れる。 本物に触れる機会を増やす。（プロフェッショナルとの交流など） 世代を超えた交流から興味や考え方を学ぶことで、自分で考える能力が育つ。 学校における「自尊心育成」「企業教育体験」「福祉施設での奉仕活動」 		●	●
	興味・関心を持つ機会を。	<ul style="list-style-type: none"> 才能をもつ地域の高齢者を活用する。 企業人を教育に活用する。 		●	●

区分	意見		取組の主体		
			自助	共助	公助
主に学校教育	コミュニティスクールは地域・地区による格差があるのでは？	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティスクールを増やすことが重要 すべての学校をコミュニティスクールにする。 		●	●
	体験の場	<ul style="list-style-type: none"> 小学校での体験学習に地域の人に参加。シニアの人にもサポートしてほしい。 		●	●
	地域での学び	<ul style="list-style-type: none"> 地域で学びの場、勉強会を開く。 塾の代わりに高齢者（その道のベテラン）の協力で勉強心を育てる。 せめて小学校は、100%の子が「分かる」状態になってほしい。できない子の学習支援の仕組みを地域でつくる。 行政は場を提供し、地域は知恵と人材を提供し、仕組みはみんなで知恵を出す。 		●	●
	子育ての地域拠点（学童の活用）	<ul style="list-style-type: none"> 学童保育では、「地域シルバー」「OB」「中学生」等が公園で遊び方を教える活動をしている。 地域を子育てと防災で結ぶ“学童プラザ（仮称）”構想を推進 		●	●
	多様な学びの場	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学びの場の情報提供 さまざまな学びの場を提供 フリースクール、通信制などニーズに合わせた教育づくり 		●	●
	誰が主役？子ども？親？	<ul style="list-style-type: none"> モンスターペアレントを減少させるために、子・親・教師の主張や立場を明確にする。 	●	●	●
	教育の根本は大丈夫？	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの改善、教員の資質の向上が必要 教育の在り方を改善（市教育委）が必要 しかし、先生は忙しい。地域の力を使って支えてはどうか。 		●	●
主に若者	多世代交流・多機能連携	<ul style="list-style-type: none"> ふるさとのないつても戻れる場が必要。（学童への里帰りなどが有効） 気軽に行ける多世代交流できる場所があればよい。（子育て中の人、若者、老人、病気の人など） 色々な職業シニアの話・旧友との話・広く考える場をつくる。 人と交わる場、多様性を学ぶ場をつくる。 学童プラザをつくり、活用する。 		●	●
	働く価値観の育成	<ul style="list-style-type: none"> 何でも話し合える家庭にする。（励まし続ける。） 子どもに自立を促す。 働くよろこびを親が子どもに話して聞かせる。 バブル時代子どもだった人々がニートになる。生活するために仕事をして、仕事のストレスを解消するためにスポーツなり趣味を楽しむ生涯を目指す。 中学3年生くらいまでには、自分が将来どんな職業に就きたいかをよく考えさせよう。そのために、その道の達人の話を聞かせる機会を大いに増やす。 使命を与え、向上心を醸成する。 仕事をして生活するのが当たり前であることを教える。 人生・職業のビジョンを考える機会づくり ボランティアの良さを教える。 	●	●	●
	本格就労の前段階	<ul style="list-style-type: none"> 就労の機会・「働く」を経験する機会を増やすことが重要 中間就労の場をつくれるとよい。 			●
	学校教育のカリキュラムの中に“働く”を意識する機会を	<ul style="list-style-type: none"> 教育の段階から就業を意識したカリキュラムをしっかりとる。 働くことの意義・実態を学校教育で教える。 就業体験の機会を与えることで、就業のよろこびを感じさせることが重要 就職活動の仕組みを変える。 民間企業も子どもの育成を支援してほしい。サポートしている企業をほめよう。 		●	●

区分	意見	取組の主体			
		自助	共助	公助	
主 し 若 者	つらい体験も共有すれば救われるのでは？	<ul style="list-style-type: none"> ・ニート、うつ、ひきこもりを乗り越えた人の経験を広める。 ・現代のうつ病のカウンセリングを行う。 ・ニート、ひきこもりに自信を持たせる。(ほめてあげる。) そのために成功した人を活用する。 ・活躍できる機会を地域でつくる。 ・ほめる、自尊心をつける。 	●	●	
	辛い状況にある人を抱える家族を1人にしない	<ul style="list-style-type: none"> ・行き詰っている家族を地域で支える。 	●	●	
	家庭・地域・行政・民間が横断的に取り組む必要あり	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験をたくさんする。 ・仕事のやりがいを体験する。(自分が人の役に立つということ) 		●	
	国と市の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・国に任せる。 ・国と市の役割分担をよく考えるべき。 			●
	結婚を促し支える	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚観の醸成 ・男女の出会いの場・きっかけづくり ・最大規模「街コン」を開催する。 	●	●	●
	就職支援(情報提供/キャリア教育)	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアサポートかわさきありがとう！うちの子がお世話になりました。 ・再チャレンジできる人材支援、職業教育、キャリア教育が重要 ・就職支援の情報提供・アクセス支援が重要 ・若者限定の起業支援が重要 			●

《意見シートでの意見》

<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ機能が希薄な都市部だからこそ、みんなが集まれる多世代交流の場が必要。それを地域の人たちで支えるのが中心の課題だと思う。行政には各地域でそういう取組が進むようにサポートしていただきたい。 ・健やかな成長とは、夢や希望とは、自尊意識とは、生きがいとは、自立とは、幸せに生きるとは、自分で子どもに説明できる準備をしたい(行政でもまとめてほしい)。
--

第2回全体会【防災・コミュニティ】における意見一覧

区分	意見		取組の主体		
			自助	共助	公助
		・			
		・			
		・			
		・			

第3部会【暮らし・交通】における意見一覧

区分	意見		取組の主体		
			自助	共助	公助
		・			
		・			

第3回全体会【文化・スポーツ・都市イメージ】における意見一覧

区分	意見		取組の主体		
			自助	共助	公助
		・			
		・			

第3章 市民から市民へのメッセージ(案)

市民検討会議では、主な政策分野ごとに、「自分・家庭でできること」、「地域でできること」、「行政が行うべきこと」という3つの視点で検討を行ってきました。そのうち、「自分・家庭でできること」、「地域でできること」に関する意見のまとめに基づき、市民検討会議から川崎市民全体への呼びかけとして、『市民から市民へのメッセージ』をまとめました。このメッセージが、新たな総合計画の中に掲載されることで、地域の多様な人材による市民参加や市民の主体的な取組がこれまで以上に活性化し、市民と行政の協働によるまちづくりが進むことを願います。

※ 「社会福祉」の意見まとめを踏まえて事務局で記載したイメージです。

みんなで取り組もう 私たちができること（案） ～ 市民から市民へのメッセージ①～

「超高齢社会においても生き生きと暮らし続けることができる地域の
支え合いのために」

□ 地域の高齢世代同士や世代間で支え合うためには、支援が必要になる前から近所の人たちとの顔の見える人間関係をつくるのが大切です。挨拶や声掛けから始めて、地域に知り合いや友達をつくりましょう。



□ 町内会などの地域活動や社会貢献活動など、地域にはシニア世代の「出番」がたくさんあります。高齢者になっても元気なうちは、これまで培ってきたスキルや経験を活かして、「地域の担い手」になりましょう。



□ シニア世代には仕事や子育てで培った知識・経験があります。こども・若者も含めた多世代交流を通じて、地域で次世代を育成し、世代間交流による支え合いを大切にしましょう。



□ これから高齢者になる人は、いつまでも元気で暮らすために、外出する機会を増やして積極的に人と交流しましょう。また生活の中に適度な運動を取り入れましょう。



川崎市総合計画市民検討会議より

※ 「子育て・教育」の意見まとめを踏まえて事務局で記載したイメージです。

みんなで取り組もう 私たちができること（案） ～ 市民から市民へのメッセージ②～

「次代を担う子どもを安心して育てることのできるまちづくり」

- 家庭や地域でさまざまな人材が関わりながら、子どもを孤立させないことが大切です。「伴走者」として、子どもの成長（学習・自尊心・好奇心・集中力・コミュニケーション力・自立など）に地域でしっかり寄り添いましょう。



- 気軽に相談できる子育て先輩のネットワークをつくり、みんなで子育て世代をサポートしましょう。



- 必要な行政サービスについて、市民と行政ともに学び合いましょう。



- 子どもの頃から、家庭や地域でさまざまな職業の達人と話すなどの実体験や情報を与え、子どもに働く喜びや価値観をリアルに感じてもらいましょう。



川崎市総合計画市民検討会議より

